

我が師の恩（江口先生を偲ぶ）

昭和二十九年年度六年星組 宮地 和俊

元千里第二小学校 校長

江口先生が、先年、お亡くなりになりました。先生は、私が、千二小学校での3年間担任をしていただいた、というだけでなく、私自身が小学校の教員として社会に出た後もいぶん目を掛けていただきました。

先生は、小学生にとってはかなり厳しかったと思いますが、業の鐘が鳴っても悪がきどもが暴れまくって、先生にこっぴどく叱られ、頬っぺたを張られたり、忘れ物をしたら家に取りに帰らされ、ふーふーいいながら教室へ帰ってきたこと・・・など、厳しい先生という印象が強いのですが、授業中に戦争や昔の暮らしのことなど、色々と話してくださり、楽しかったことを思い出します。また、6年生の夏、暑い盛りに、運動場北側の土手（今のプールから校舎への階段あたり）が崩れ

ていたので、先生の音頭のもとに、男子が土を運んで埋めるという奉仕活動を行ったことも懐かしい思い出です。

小学校卒業後は年賀状をだす程度で、お会いする機会はほとんどありませんでした。教員志望だった私は大阪府の教員試験を受けることになり、面接会場に赴きました。会場に入って一礼し、顔をあげたら3名の面接官の真中に江口先生がおられました。ドキンとしたとたんめちやくちや緊張し、小学校のとき、先生の前に立たされている気分になり、思わず目を落としました。しかし、先生は昔の厳しい先生というよりもやさしく教え子を見守るといふ感じで、「宮地君、いい学校へ行かせてあげるよ」と言われ、赴任したのが吹田市の吹田第一小学校でした。吹一小では千二小におられた西田先生、木島先生、小林先生など懐かしい恩師の方々に教師のいろはを手取り足取り教えていただきました。江口先生も大阪府教委の指導主事をされていましたが、新米の私が無事勤めているのか心配だったのでしよう、何度も声を掛けていただきました。その後、先生は吹田市に戻って来られ教育研究所長、市立小学校長、学校教育部長等の要職につかれ、最後に

吹田一中校長で退職されるまで、機会がある度にご指導いただきました。私がどうやらこうやら一人前の教師になれたのも先生の声掛けがあったからこそと、感謝しています。先生は、若くして退職された後、PL学園大学で20年以上にわたって教師候補生を育ててこられました。

私と云えば、その後、千二小をはじめ市内の小学校で教員を勤め、千二小学校の校長で教職生活を終えました。その間、江口先生をはじめ、西田、木島、小林先生、森田先生そして有川校長先生・・・数多くの恩師にめぐまれましたが、ほとんどの方々が彼岸に渡られた今、恩を返すこともかなわず、ただ、感謝するのみです。

江口先生、ありがとうございました。ゆっくりとお休みください。

草々

宮地さんは二十六回生で、一九九六年から、二〇〇二年まで、千二小で校長として最後の踏ん張りを見せられました。

左の写真は最上段左から
小林・江口・木島先生
最下段左から
東谷・藤木・西田先生
その隣は有川校長先生



下の写真は江口先生の
拡大写真

